

白道のカミミールノ使

草 ①

刈っても 刈っても

美郷町に来て驚いたことの一つは草の伸びる早さである。私の住む上野あたりは、山あいの川を挟んでわずかばかりの田畑と集落がある。日照時間は短く湿度は高い。

夏は草刈りに追われる。我が工房は斜面が多く、平面も果樹園、窯場、母屋と3段に分かれている。朝夕刈っても数日かかる。2週間もすれば、初めに手を付けた所は既に草が伸びている。

次男が継いだ九州の工房は、年に数回の草刈りで済んだ。敷地は40坪ほどあるが平面が多く、1日あれば足りる。

美郷に来てすぐ、穴窯用に100トの松の原木をチェーンソーで切断し、割って乾燥させた。2年



草刈り機を操る大住福夫さん＝筆者撮影

後、松は黄色くならずカビで黒ずみ、カンカンと乾いた音の代わりに鈍い音がした。草にとつての天国は、薪の乾燥に不向きと実感した。

隣の大住福夫さん（90歳のラストサムライ）は「昔は牛を飼うとったから、毎朝暗いうちに家を出て、草刈り場で夜が明けるのを待って、背にエット（たくさん）負うて戻りたいのう。家の近くの草も刈るけえ、イノシシもおらだった（いなかった）」と言う。

姿を消した牛の代わりに今はイノシシが徘徊し、毎夜ドアをノックする。いっそイノシシが草を食べてくれたらいいのに！ このごろはクマも出始めた。

工房は小さな谷の集落へ続く入り口にある。狭い山道を上ると、雑草に占領された廃屋や荒地と化した田畑が続く。田舎暮らしの適地を探して大阪や広島から来る人たちも、一目見れば逃げ帰る。

伸びない草の研究を大学や企業と一体となって進めてほしい、と中山間地域研究センターに要望した。（つづく）